

帰化植物メモ

マツバウンラン フラサバソウ
ベニバナセンブリ

帰化植物には古い時代に日本に渡来し、畑地や水田の雑草としてよく知られている種類の他に、最近になって侵入し日本の気候に耐え、徐々に分布域を広げているものがある。

最近、園内外で観察された2・3の帰化植物について報告する。

マツバウンラン

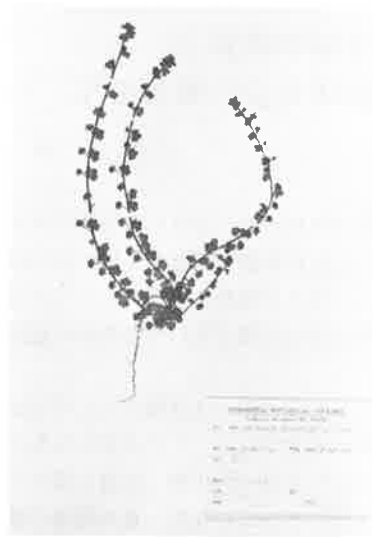
Linaria canadensis (L.) Dum. ゴマノハグサ科
本園の展示資料館前の芝生斜面に約50m²の広がりて群落を形成しているのを観察した(S・54・5)。株は細長く立ち上がり約30cmぐらいになる。花は青色で小さく、下から穂状に咲き上がり順次結実する。株元に線形の小さな葉をつけた小枝を多数分枝する。北米原産で近畿地方の海岸や草地に帰化しているが、広島近郊ではあまり見かけない。



マツバウンラン

フラサバソウ

Veronica hederaefolia L. ゴマノハグサ科
本園の系統進化園で3株生育しているのを見つけた(S・54・4・11)。本種は全国的に分布しているオオイヌノフグリに類似しているが、花が小さく薄水色である点と、果実がオオイヌノフグリが心臓形であるのに対して、球形で4条の溝がある点で区別できる。欧亜大陸原産で日本では九州を中心に古くから見つかったが最近では各地で見つかるようである。

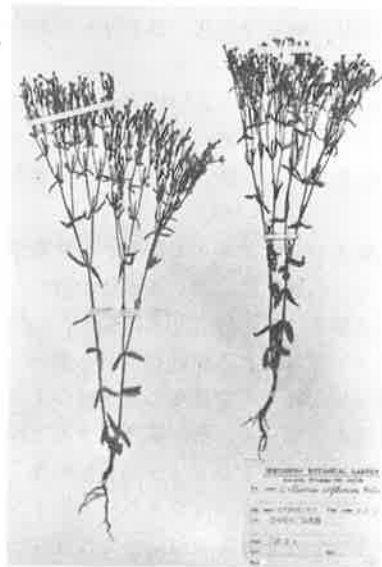


フラサバソウ

ベニバナセンブリ

Centaureum erythracea Rafn. リンドウ科
五日市町海老園の国道横の緑地帯で見つかった(S・54・8・2)。乾燥気味の芝生の中に大小の株が多数生育していた。

高さは20~30cmで、ホウキ状に多数分枝し、桃色の小さな花をつける。欧州原産で、1960年に呉市で見つかった記録がある(久内清考, 植研 vol. 35)。また、近年、竹原市でも採集されている。



ベニバナセンブリ

(青山幹男 記)